

石クリ通信

7月号

歩く！つて決めたのに

事務 森 多加子

石クリ通信1月号で今年の目標は歩くこととお話ししましたが、今年も残り半分だと言うのに、その目標は全くと言ってよいほど達成されていません。運動すれば好きな物を食べたり呑んだりしても大丈夫なんて、相変わらずの生活をおくっていたら『あれあれ、この服縮んだ？』いえ、私がまた大きくなったに違いないのです。まずい、歩かなければ…

花の香り

事務長 石川 都

梅雨に入って紫陽花の色とりどりの花が美しい。最近の色も形もさまざまな新種の紫陽花があり、クリニックにも母の日プレゼントの「万華鏡」という白・緑・青紫の清楚な紫陽花がしばらく窓辺にあった。梅雨の時期は垂れこめた雲の厚さが少々鬱陶しいが、それもまた風情と思うと、それなりに楽しめる。ひと雨ごとに木々の緑は次第に濃くなり、自宅裏のケヤキの大樹も葉を大空に広げて涼しげである。花よりも樹が好きで私なので、名も知らぬ庭の木々の花の香りにも心惹かれる。

わが家も、今年は待ちに待った柑橘類の花がようやく咲き、香りが庭に満ちて嬉しかった。昨年はユズの木の実が、極彩色でドンダリ目の怪獣のようなアゲハの幼虫に全て食べられ、丸裸になってしまつて残念だった。幼い頃に童謡「みかんの花咲く丘」を歌いながら、みかんの花つてどういふ花なんだろう？と思つていた。白くて可憐な花を実際に見たのは、日立に来てからである。

またこの季節は、歩いていて突然よい香りに包まれ、この香りはどこから？とあたりを探すのも楽しい。香りは副交感神経に作用して心を落ち着かせる効果があるため、香りを医療に生かすアロマテラピーも、最近ではよく知られるようになった。

私の大好きな上橋菜穂子の「鹿の王」については以前ここで書いたが、最新作の「香君」も、香りの声を聴いて万象を知る少女を題材にした素晴らしい物語なので、いずれ機会を見てまた紹介したい。



おかしいなと思うこと

院長 石川 悟

地下鉄大手町駅の係員が、落とし物のICカード（Suica?）をネコババした記事を先日読みました。どのように事件が発覚したのか。カードの残額は、3205円。犯人は3200円の回数券を10枚購入し、直後に払い戻したそうです。券売機の確定作業をした別の係員が、大手町駅から3200円の乗車区間は存在しないのに、なぜ回数券を買って、直ぐ払い戻したのだらうと不審に思い、防犯カメラをチェック、犯行がわかったそうです。日々の外来診療や手術の最中でも、変だな、おかしいなと思うことがあり、それをそのままにせず原因を追求して大きな事故を未然に防いだこともあります。ノーベル賞の研究でも、予想外の結果が出た原因を調べていて新しい発見につながったという話をよく聞きます。

また事故防止の本に書いてあったことですが、飛行機のパイロットで事故が少ない人は、真面目さや几帳面であるかどうかはあまり関係なく、好奇心が旺盛で、ユーモアがあり、人との付き合いがよいという特徴があるそうです。

自分も年をとるとともに、単純なミスをしたり、おかしいなと思つても原因を追求するエネルギーが減つて、勝手に納得して小さな失敗をしてしまうことが増えました。クリニックのスタッフや自分の家族にも「何か変だな」と感じたらずぐ口に出すように！と頼んでいます。当院を受診する皆様も、診療の中で疑問に思うことや違和感を感じることがありましたら、遠慮せずに申し出て下さい。

チャレンジ！

看護師 澤田 彰子

先日マニュアル車を運転する機会があり運転しました。教習所を卒業してから数えるほどしか運転した事がなく、二五年振りでした。頭では分かっているけども左右の足を交互に動かし、同時に左手でギアも変えて、どうにか動き出したものの直ぐにエンスト。さらに信号で止まれば後続車にイラッとしてそれそうなくらいゆっくりにスタート。スポーツカーで娘とのドライブはいつになったら行けることやら…

クジャクサボテンの実

事務 吉田 政子

今年も父の手入れのお陰で、濃いピンクと白のクジャクサボテンが華やかな花を咲かせてくれました。実もいくつかできています。今度は、その実がもう少し熟したら、挿木ではなく種から育ててみると思うので、私も父と一緒に種から挑戦してみようと思っています。確かではありませんが、サボテンの実の中身（果実?）は、食べられるそうです。私自身は、食べたことはありませんが、ドラゴンフルーツの様な味でほんのり甘いらしいです。食べてみるのには、少し勇気が必要ですね。

シーサイド・ロード 看護助手 柴田 さち子

仕事帰り、週に一度は通りたくなる道路があります。それは海上の橋、日立バイパス。途中には浜の宮ローパークもあり、キラキラ光る海の景色は最高です。まるで海の上を走っているかのような快感で、最高のドライブです。



絶滅危惧動物

看護師 太田 小百合

絶滅危惧動物図鑑という本を知っていますか？テレビ番組で取り上げられているのを見て、「そういえば図書館にもあったなあ」と思い出し、借りてみました。なつかしいものや、「えっ！今もそれ普通にやつてるけど…」という動物もありました。

扇風機の前で「あー」と変な声を出す、缶詰のフタを缶切りで開ける、など行動の意味がわかるものの他にも、テレビをたたいて映るようになる、ゲームのカセットに息を吹きかける、など実際にやってみたんだけど、意外とおもしろい。感動的な動物もありました。意外と楽しく見ることができた本です。皆さんもぜひ一度読んでみて下さい。

呼び声

通信・ウェブ担当 石川 香

この写真を見て、思わず自分だ…と感じただけでなく、娘に聞いたらさかさ「ママだ…」とハイハイ、自分でも自覚してますよ。普段はがんばつて怒らないようににはしてるけど、プチッてキレたらこうなってること。

イヤイヤ期真っ盛りの下の息子の呼び声は、クリニックまでよく聞こえるようで、先日患者さんが車の中を様子見にきてしましました。恥ずかしい…。こちらの絵は木下ユキさんの本からです。育児をおかしく紹介してて笑えます。

